

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月22日

提出区分	実績	整理番号	6	課題区分	C	
横断的な課題	大規模地震・噴火・水害等の発生時における対策の充実・強化					
地域重点政策						
実施機関	松本地域振興局総務管理課・松本保健福祉事務所			担当課	所属	松本地域振興局総務管理課
事業名	大規模地震を想定した防災講演会			電話	0263-40-1903	
				E-mail	matsuchi-shokan@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	大規模災害の発生に備えた防災意識の醸成及び災害対応能力の向上 避難時における避難者の心身のケアに対応した食事提供のための体制整備				
	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨、台風、地震、火山といった大規模災害の発生懸念が年々高まる中、県民にどのように危機意識を醸成させるべきか、命を守る行動をとらせるべきか等、地域住民の防災意識の醸成を図る必要がある。 ・また過去の大規模災害においては、避難所の食事内容の偏りや、疾病やアレルギーなど食に関する要配慮者への対応など、食と栄養に関する様々な課題が表出しているため、要配慮者を含めたすべての避難者の心身の健康を支える食事提供のための体制整備が不可欠である。そこで、災害時の食支援に関わる関係者が課題を共有し、課題解決に向けた検討を行うことで、大規模災害時の栄養・食生活支援に係る連携体制の構築と平時からの取組を推進する。 				
概要	内容 (変更後の内容)	<p>大規模災害の発生に備えた防災意識の醸成及び避難時における体制整備について、次の講座を開催する。</p> <p>【避難者の心身の健康を支える食事提供のための体制整備についてのシンポジウム】(オンライン開催) ○日時: 令和4年12月2日(金)午後1時30分から午後4時まで ○対象者: 市村防災担当者、市村保健衛生担当者(管理栄養士・保健師等)、長野県栄養士会員、その他防災関係者 約100名 ○内容: 講演「いざという時どうする?～あなたの食と栄養～」 ○講師: 公益財団法人味の素ファンデーション被災地復興応援事業マネージャー 齊藤 由里子 氏 ○事例紹介 ・「令和元年東日本台風災害における食支援について」 講師: 長野市危機管理防災課防災対策官 吉原 正夫 氏 ・「JDA-DAT(日本栄養士会災害栄養支援チーム)による要配慮者支援活動について」 講師: (公社)長野県栄養士会副会長 JDA-DAT長野担当理事 花岡 佐喜子 氏 ・「避難所における大量調理(炊き出し等)に対応した献立表の整備について」 講師: 松本保健福祉事務所健康づくり支援課 担当者</p> <p>【危機意識の醸成、命を守る行動をとるための学びの機会となる講演会】 ○日時: 令和5年3月5日(日) ○講師: 信州大学地域防災減災センター菊池聡所長 ○演題: 「防災減災のための心理学」 ○対象者: 行政職員、消防団員、町会地区役員、一般市民 約100名</p>				
	事業期間	令和4年12月(シンポジウム開催) ～ 令和5年3月(講演会開催)				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考		
	大規模災害時の栄養・食生活支援に係る連携体制の構築と平時からの取組推進	シンポジウム	24,500	講師謝金		
	防災関係者及び一般市民への啓発	講演会	19,200	講師謝金		
	合計	43,700				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	シンポジウム参加者数		40人以上	66人	○ 達成	
	シンポジウム参加者満足度		80%以上	95%	● 一部達成	
	講演会参加者数		100人以上	60人	○ 未達成	
	講演会参加者満足度		80%以上	98%		
事業実績・成果	<p>シンポジウムについては、講演内容と実際の災害対応事例が市町村における体制整備の検討に資する内容となり参加者から好評を得た。</p> <p>講演会については、心理学という観点での講演であり、「切り口が新鮮」「具体例が多くわかりやすかった」という声が多く、心理を活用した対策についての提案もあり「参考になった」、「活用したい」という意見が見られた。引き続き、防災意識の醸成や避難時における体制整備について、多くの県民の方に参加いただける取組を展開していく必要がある。</p>					
今後の方向性	担当者向け、一般向けと様々な角度で最新の状況を伝えられる機会を創出し続けていくことが肝要である。					